

[ 成果情報名 ] ニガウリ接木栽培における台木別の生産性

[ 要約 ] ニガウリの接木栽培を行う場合は、カボチャ台木「新土佐1号」が生産性は高い。トウガン台木「ベスト2号」は「新土佐1号」と比較すると生産性は劣る。

[ キ - ワ - ド ] ニガウリ、台木

[ 担当 ] 総合農林試験場・作物園芸部・野菜科

[ 連絡先 ] 電話（代表）0957-26-3330、（直通）0957-26-4318

[ 区分 ] 野菜

[ 分類 ] 指導

---

[ 背景・ねらい ]

長崎県ではニガウリはイチゴ後作の作目として導入され、今後も面積は拡大していく傾向にある。しかし、自根栽培およびカボチャ台木栽培でのつる割病の発生や栽培後期の収量の減少が問題となっている。その対策のため、新たな台木品目による栽培法を検討する必要がある。そこで、一般的にニガウリの接ぎ木栽培で使用されているカボチャ台木「新土佐1号」と、つる割病に耐性があるトウガン台木「ベスト2号」によるニガウリの収量への影響を検討する。

[ 成果の内容・特徴 ]

1. 果形は自根栽培、接木栽培で差はないが、開花から収穫までにかかる日数はトウガン台木「ベスト2号」が若干早くなる。(表1)。
2. ニガウリは接木栽培を行うと異常果の発生が多くなる。(表1)。
3. ニガウリの接木栽培において、カボチャ台木「新土佐1号」は自根と同等の収量が確保できるが、トウガン台木「ベスト2号」では生産性が劣る。(表1)。
4. 収穫期後半の収量は自根 > 「新土佐1号」 > 「ベスト2号」の順に多い(図1)。
5. トウガン台木「ベスト2号」でのニガウリ栽培は可能であるが、主根の発生が少なく、また、収量が2割程度減収する(表2)。

[ 成果の活用面・留意点 ]

1. 本情報は、イチゴ後作でのニガウリの栽培期間に試験したものである。
2. 本情報はニガウリの接ぎ木栽培に活用する。

[ 具体的デ - タ ]

表 1 収穫調査 (収穫期間:6 月 1 日 ~ 8 月 10 日)

	1果重 (g)	果長 (cm)	果径 (mm)	開花から収穫までの日数 (日)	収量 (kg/10a)	異常果の発生率(%)			
						曲がり	変形	短形	合計
自根	355.7	29.4	57	17.1	2829	4.7	1.7	0.6	7.0
新土佐1号	348.2	29.1	57	16.4	2852	7.8	3.2	1.9	12.9
ベスト2号	338.7	28.3	56	15.6	2238	8.0	5.0	0.6	13.6

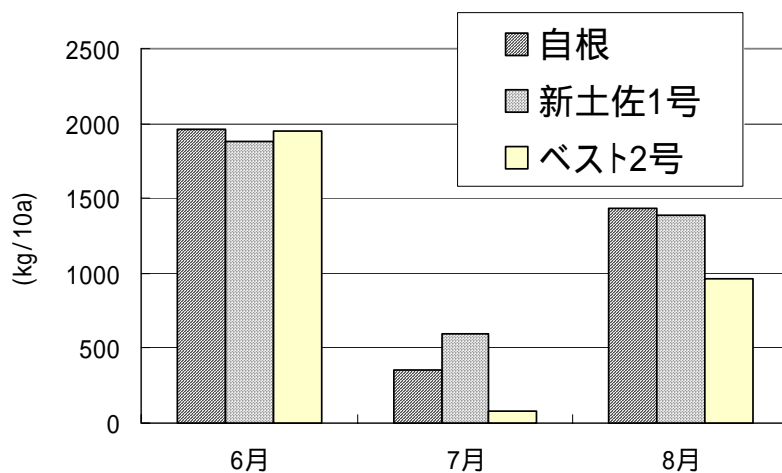


図 1 月別収穫量の推移

表 2 各台木の主根数と収量

	主根数 (本)	収量 (kg/10a)
自根	13.6	3424 (100%)
新土佐1号	10.6	3410 (99%)
ベスト2号	8	2582 (75%)

注)収量は全収穫期間 (6 月 1 日 ~ 8 月 23 日) の総量

耕種概要

- (1)ニガウリ品種:「えらぶ」(八江農芸)
- (2)台木品種:カボチャ 「新土佐1号」 トウガン 「ベスト2号」
- (3)播種期:自根平成 19 年 2 月 13 日  
 トウガン 1 月 25 日 穂木 2 月 1 日 2 月 22 日接ぎ木  
 カボチャ 2 月 8 日 穂木 2 月 7 日 2 月 17 日接ぎ木  
 定植期: 3 月 19 日  
 収穫期: 6 月 1 日 ~ 8 月 10 日
- (4)栽植密度:株間 2m (150 株/10a)
- (5)仕立て法および栽培様式:子蔓 4 本仕立て、単棟 AP ハウス、7-8 月天井ビニール上面に透光率 85%白寒冷紗を被覆
- (6)施肥:基肥 N:P:K=15:15:15(kg/10a) 追肥:生育に応じ液肥施用

[ その他 ]

研究課題名:地域ブランドに向けた野菜の生産技術確立  
 予算区分:県単  
 研究期間:2007 年度  
 研究担当者:松尾憲一